

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871101180		
法人名	医療法人社団それいゆ会		
事業所名	グループホーム「かわも」		
所在地	宝塚市川面3丁目24番9号		
自己評価作成日	平成29年3月4日	評価結果市町村受理日	平成30年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	平成30年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「医療法人社団それいゆ会」が母体で、こだま病院・見玉診療所が近くにあり、医療面で連携が取れているので安心である。体調不良の緊急時にも素早い対応が出来る。JR宝塚駅・阪急宝塚駅のすぐ北側徒歩2～3分の交通の便利な位置にあるが、ホーム前の道路は交通量の多い斜面にあるので、出入りには特に気を付けている。平成16年7月に開設してから地域にとけこんでおり、自治会・市包括・行政との連携も深まっている。管理者やそれぞれのユニットリーダーが利用者や家族の希望・意向を汲み取り、報告・連絡・相談などを常に心がけ、理念にある「安心・まごころ・ふれあい・結びつき」を取り入れたグループホームづくりを目指している。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は診療所や訪問看護ステーション、小規模多機能、デイサービスなど法人の医療介護館の中に位置し、それぞれが連携しながら地域の医療福祉に貢献している。利用者は安心の医療福祉連携体制と、家族的な雰囲気の中で支援を受けている。この数年で高齢化や重度化がさらに進み認知症の対応に苦慮することも多いが、利用者を見守り支援することや学習療法、音楽療法、リハビリなどを実践し、現存機能が維持できるよう支援している。利用者は眼下に広がる住み慣れた街並みを眺め、笑顔でお喋りを楽しんでいる。管理者やリーダーはじめ開設当初から勤務している職員が多く、離職率が低い職場環境の中でチームワークを強化し、さらにケアの質が向上する取り組みを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念は、常に目に入る場所に掲示している。職員は4つの理念を共有し、理念を基に介護に活かせるように話し合っている。	開設初期からグループホーム独自の理念である、「安心の医療、まごころのケア、家族的なふれあい、地域との結びつき」を大切に考えてきた。理念を掲示し、名刺ケースに入れるなどにより共有している。理念にもとづいた実践の評価は行なっていない。	理念にもとづくケア実践の成果や評価を行うために、目標を持ち計画的に実践されてはかがか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	それいゆ会のお祭りには地域の方々に来て頂いたり、敬老の日、クリスマスの日には近隣の園児が来訪し、歌や踊りを披露してくれたりと一緒に楽しませて頂いている。	長年地域医療に貢献してきた法人の医療介護館の中にある事業所は、開設当時から地域とのつながりが深く、自治会に加入し清掃などの自治会活動に参加している。祭りの際は多くの地域住民が来所し盛況である。ボランティアやトライやるウィーク、自治会の施設見学会の受け入れなど、地域に開かれた事業所作りを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター事業にてオレンジリングの輪を広げる研修会やマラソンに参加して、小学生・一般市民の方々に理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の運営推進会議で利用者の状況やホーム内での活動・行事等を報告している。出席のご家族、介護保険課・包括の職員、他の施設職員の意見をお聞きして入居者対応の参考にしてしている。	市や地域包括、民生委員、市内の老人介護施設職員、介護相談員、家族の参加があるが、最近は自治会長は欠席がちになっている。現状報告と共にヒヤリハットの状況から意見交換を行ったり、ミニ研修会を実施している。議事録は家族には送付せず閲覧できるようにしている。	議事録は家族全員に送付し、さらに運営への理解や関心が高まることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席して頂き、その度にグループホームの取り組みに評価をもらったり、感想を頂いたりしている。	市主催の施設部会に参加し介護保険の改正の情報を得たり、講演会を企画するなど関係性を築いている。また、地域包括に成年後見制度の研修を依頼し、地域包括から困難事例の相談があるなど相互に協力しあっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行いどのようなことが拘束になるのか職員全員が周知してケアを行うようにしている。	研修を行い身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、転倒防止のためのセンサープレートを使用している。使用の際はカンファレンスで検討し、家族の了解を得て実施しているが、マニュアルの整備が十分ではない。事業所前が車道で事故のリスクが高いため止むを得ず施錠している。	身体拘束マニュアルを整備し、手順に沿った支援を期待したい。

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で虐待について学び、言葉使いや対応で気づいたことなど職員間で注意し、話し合いを持っている。職員のストレス軽減につながる話し合いを行っている。	職員が講師となり、高齢者虐待や認知症の対応の研修を行い、不適切なケア防止について学んでいる。特に指示的な言葉遣いや利用者の名前の呼び方など、気がついたら個別に注意を行い、会議の中で注意を喚起している。法人は職員のストレスマネジメントに取り組む予定である。			
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に成年後見制度を利用されている方がおり、利用者に必要な時には他の家族にお話しをする機会も作り、年に1回研修も行っている。	制度の利用者がおり、運営推進会議で司法書士から研修を受けたり、地域包括職員から研修を受け、職員は一定の知識がある。資料やパンフレットも準備し閲覧できるようにしている。			
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間を取り、説明して事前に書類を1度持ち帰って読んで頂いている。後日不明な所は再度説明させて頂いている。	見学を勧め、可能であればショートステイでお試し体験を行ったり、説明後に一旦資料を持ち帰り、納得して契約できるようにしている。特に利用料金や医療連携、いつまで入所できるのかなどの不安や疑問について丁寧に説明している。			
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族が運営推進会議、家族会、来訪時にかわもの介護に関しての意見・要望を言って下さったことを運営に活かすようにしている。	家族会は年に2回イベント開催時に行い、ターミナルケアや権利擁護、第三者評価結果などテーマを決めミニ研修や意見交換をしている。運営会議や来訪時にも要望を聴くようにしているが、個人的な要望が多い。			
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員からの訴えについて常に聞く耳を持ち、職場責任者会議等で法人代表者に報告して職場の改善を行っている。	ユニットリーダーは会議や申し送り時以外も職員の意見に耳を傾け、物品の購入や業務改善の意見が反映されるよう管理者と話し合っている。職員が主体的に取り組めるよう研修会では担当職員がテーマを決め、資料の準備や講師をしている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段から管理者より報告を聞いているのと、法人合同の歓送迎会・忘年会等で職員の意見を聞く機会を作り、職場の整備に努めている。				
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	兵庫県認知症実践者研修、宝塚市の口腔ケア研修会、くもん学習療法研修会等に参加をして、受けた職員が事業所内研修会にて講師となり互いに学びあっている。				

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宝塚市介護事業者協会の施設部会で同業者との交流があり、意見交換や勉強会をして、サービスの向上に取り組んでいる。研修会の中で、当GHのくもん学習療法の取り組みを紹介している。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	いつもと違う状況が見られたら寄り添い、困っている事・不安な事・心配事があるかお聞きし、傾聴することで安心していただける関係づくりに努めている。			
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の相談の段階より、家族の希望、不安なことなどお聞きし、家族が安心して頂けるように努めている。管理者・職員は、来訪時に必ず家族に近況報告をしている。変わったことが無くても何か一言お話しをすることに心がけている。			
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始の時点で、本人と家族が一番望んでいることを出来る限り支援することに努めている。初期には、言えなかったり、少し時間が経ってからの要望もあるので、焦らず待つこととしている。			
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人がこれまで行ってこられた家での仕事、役割を大切に、できることはお願いして、共に過ごす仲間同士としての関係を築いている。心が通う介護を目指している。			
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族と本人の関わりを大切に、家族と協同して本人を見守り、支えていく関係を築いている。			
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の知人や馴染みの方との関係は継続し、途切れないように支援に努めている。	友人や近所の知人が訪ねて来たり、同建物内のデイサービスに来ている知人に会いに行くなどの交流がある。踊りの会や近くの喫茶店、馴染みの散髪屋に行くこともあり、家族の協力を得ながら馴染みの関係性が途切れないよう支援している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性や個人の思いを把握し、 良い人間関係が築けるように努めている。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、随時相談には乗り、他のサービスの紹介等させて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の暮らしぶりは、初めに本人、家族、友人から聞き取り、希望に沿うように勤めている。	居室担当者を中心に利用者個々の特性を把握し、難聴や認知の程度に応じて表情、仕草などで意向を確認している。支援計画に外出や学習療法、リハビリなど個別の要望を反映し、支援できるよう取り組んでいる。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家での過ごし方、以前のサービス利用の内容等これまでの暮らしぶりをなるべく多く情報収集して、こちらでのサービスの参考にしている。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者によっては、ご自分の思いや希望などが伝えられない場合もあるので、利用者をよく知っている人たちに本人に成り代って考えて頂く様に努めている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、知人の意見を聞き介護計画の作成をしている。また、入居者の変化に応じて介護計画の見直しをしている。	毎月ケアカンファレンスを行い、職員間で課題や情報を共有している。モニタリングは居室担当者と計画作成者が検討し実施している。担当者会議は職員間で実施し家族の参加はない。	担当者会議は家族参加のもとに開催されることを望みたい。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人ファイルに日々の様子、気づきは記入し、職員間で共有し、アセスメント、モニタリング、介護計画に活かしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況により家族に代わって必要なものを利用者と一緒に行ったりすることもある。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の保育園の子どもたちとのふれあい、中学生のトライやる等地域資源を大いに活用している。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に、かかりつけ医をお聞きし、今までの主治医をそのまま継続されている。主治医がおられない方は、確認の上でこちらの協力病院、診療所にかかられている。精神科、皮膚科受診の相談にも乗り、職員が同行している。	法人の診療所と密に医療連携をしている。内科に関しては全利用者が同診療所の医師を主治医にしており、隔週の訪問診療を受けている。診療所の整形外科、眼科、リハビリ科にも職員が付き添う。他の医療機関の受診は原則家族が付き添うが、必要に応じて職員が対応している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護や診療所の看護職と常に情報交換できている。吸引器の使い方など必要に応じて勉強会をしてもらったり、糖尿病や褥瘡、血圧について必要な処置・相談に乗ってもらっている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同じ法人内の協力病院、診療所なので、入退院の情報交換や相談は常に行っている。他の救急病院の場合で家族がいない方は、管理者・職員が付き添い、退院相談等を行っている。病状的にGH退所の方にも病院から次の行先をケースワーカーと共に管理者は相談に乗っている。	今年度、転倒からの骨折や肺炎で入院した事例が数件あった。いずれも入院先は法人の病院で、管理者や職員が度々見舞って医療関係者と情報交換しながら早期退院を図った。退院時看護サマリーに基づいて家族と情報連携している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の対応については、入居時、家族会でそのような状態になった場合の対応について説明を行っている。主治医にも受診時家族が同行の場合ターミナルについてお話し頂いている。	利用者が主治医と面談した機会に、重度化や看取り期に関する事業所の指針、出来ることと出来ないことを説明している。法人の診療所及び病院と連携しているので、事業所内で看取った事例は無い。利用者を救急搬送しなければならなくなった際の延命措置に関する意向の確認はしていない。	高齢者施設における救急要請ガイドラインに沿って、利用者と家族が望まない延命処置を受けることが無い様、事前の確認をお薦めします。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に数回事業所内にて、急変、事故発生時に対する勉強会や訓練等を行っている		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身に付けるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災訓練、事業所内での避難訓練等行っている。災害についての研修会を通して一人ひとりに何が出来るのか、何が必要なのか、何が足りないかを考えてもらうようにしている。	懸案であった夜間想定避難訓練を実施した。煙から逃れてベランダへ避難する訓練であったが、利用者の約半数を誘導するのに1時間を要し、課題が残った。地域住民や消防団との連携に関しては取り組めていない。	地区の消防団とコンタクトを取るなどして、災害発生時に地域と連携する方法を検討されたらどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとり1人の人格を尊重して言葉使いや態度が失礼にならないように常に対応に気を付けている。	利用者には人生の先輩として接し、慣れ慣れしい言葉遣いは慎むように指導している。リビングにいる利用者をトイレに誘導する際は、周りの利用者を意識しながら、さりげない声掛けをしている。往診の際、プライバシーに配慮して利用者の居室を使う場合もある。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思を尊重して対応している。無理強いをしたり、職員の都合による対応はしないようにしている。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者一人ひとりのその時の状態を把握して臨機応変に対応を行うようにしている。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お好きな衣類をできるだけ自分で選んで頂いている。ご自分で出来ない方は職員が用意するが、コーディネートには気を付けている。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嚥下、体重の増減など個々の状態により食事形態は入居者に合わせている。四季折々の季節を感じて頂ける食材などを提供することでその季節を感じて頂いている。	法人の管理栄養士が作成した献立を、階下に有る法人のセントラルキッチンで調理している。事業所のキッチンで盛り付け、一品ずつ利用者のランチョンマットに置きながら、料理の説明をしている。利用者と一緒に、たこ焼きや巻きずしを作って楽しむこともある。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の協力の基、一人ひとりの栄養量が不足しないよう、過剰にならないように支援している。管理栄養士が、お昼どき食べている入居者に感想を聞いて次の料理にいかしている。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは行っている。入れ歯の状態、咀嚼状態等、毎週来られる訪問歯科の先生や歯科衛生士に相談している。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、対応している。夜間も声掛けが必要な方には声掛け誘導を行っている。	日中、利用者は布パンツかリハビリパンツを使用しており、全員がトイレで排泄している。夜間のみポータブルトイレを使用している利用者が数名ある。利用者が自立度を保てるようにリハビリをしたり、ベッドに腰を掛けた足踏み体操を薦めている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘には、管理栄養士に相談し、野菜をできるだけ食べてもらうことや、体を動かすことや主治医にも相談して個々に対応している。おやつに乳酸飲料を増やしてもらったり、薬剤師に便秘薬の使用方法等教えてもらったりもしている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否があった場合は、時間をずらす、対応の職員を交代するなど工夫している。	入浴は毎週2回を基本としているが、利用者の状態や希望に沿って柔軟に対応している。退院直後の利用者の安全を考慮して、隣接事業所の機械浴を利用する場合もある。入浴でリラックスした利用者の歌声が、廊下まで聞こえることもある。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝が習慣の方、うたた寝が気持ちの良い方、テレビを見ながら夜更かし気味の方それぞれに応じて支援している。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を表にして誰が見ても分かるようにしている。1ヶ月に1回薬剤師とミーティングして、飲み方や副作用について相談に乗ってもらっている。		

自己	者	第三	項目	自己評価		外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テレビ鑑賞、カラオケ、手芸、散歩、家事、くもん学習療法等その方の希望、思いをお聞きして支援に努めている。			
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	春、秋の年間行事では少し遠出をすることになっている。公園の散歩もしているが、難しい時はベランダでプランターのお花を眺めたり、日光浴をしている。	天気の良い日には、坂の少ない近くのコースを選んで散歩に出掛ける。車を使って花見に出掛け家族と一緒に弁当を楽しむこともある。今後は、隣接する事業所と合同で出掛ける機会を増やしたいと、管理者は考えている。		
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った時、可能な方はご自分の財布からお金を出して使ってもらう支援をしている。			
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、家族・親戚からかかってくる事が多く、手紙は今の入居者の方々はあまり書かれない。くもん学習療法など文字を書く機会は多く取り入れるようにしている。			
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、常に利用者が集う場所なので、車いすで自走してもスムーズに動けるようにテーブル、イスの配置に気を配っている。	2階と3階では、建物の構造が若干異なるが、共同空間は総じて余裕が有る。リビングや廊下の壁面を飾り立てる事を避けており、掃除が行き届いた床とリビングに置かれたソファが、上質な雰囲気を演出している。リビングからベランダへ出てベンチに座って景色を眺めると、開放感を味わうことができる。		
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少し離れた場所にくつろげるところを工夫している。ご自分で他の方とのくつろげる場所を作られお話が弾んでいる場合はそのまま様子を見ている。			
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が好きなものや思い出の写真など配置して、自宅のような居心地の良い空間づくりを行っている。	居室の名札の上に、折り紙で作った季節の作品が掲げられており、毎月差し替えられる。居室には洗面台が有り、ベッド、チェスト、防災素材のカーテンと布団が準備されている。家族の写真、誕生日の寄せ書き、テレビ、ハンガーラックなど、利用者はそれぞれにとって暮らしやすい空間を作っている。		
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名前を分かり易く大きく書いたり、トイレの場所がすぐ分かるように張り紙をする工夫をしている。			